



当日はあいにくの雨模様、主役の吉沢悠氏が「白磁のよう」と表現した霧の中での植樹となりました。

今回の記念植樹は、映画「道〜白磁の人〜」の冒頭、主人公の浅川巧が旅立ちを前にヤマナシの巨木の前で故郷（山梨県北巨摩郡甲村…現北杜市高根町）と友人に別れを惜しむシーンにちなんだもの。式典では、まず主人公・浅川巧役の吉沢悠氏が東北復興支援について「未来の子どもたちに向けて何かできる事を嬉しく思っています」と挨拶。次いで（公社）国土緑化推進機構・谷副理事長は、荒廃した山々の姿など戦後の思い出とともに、昭和25年に第一回植樹祭が行われた山梨県を植樹の原点として紹介しました。

皆川林野庁長官のメッセージが読み上げられた後、吉沢悠氏・浅川巧の上司町田役の田中要次氏、高橋伴明監督の映画関係者に、（公社）国土緑化推進機構・谷副理事長、（公財）山梨県緑化推進機構・浅川会長、北杜市・白倉市長、山梨県・深沢林務長、映画製作委員会・小宮山副代表などが加わり、ヤマナシの木の植樹作業を行いました。

「映画のチカラで、森を元気に。」 キャンペーン記念植樹

6月16日、山梨県北杜市ほくとの山梨県立まきば公園で林野庁推薦の映画「道〜白磁の人〜」の公開を記念し、東北復興支援「映画のチカラで、森を元気に。」キャンペーン記念植樹が行われました。

皆川林野庁長官のメッセージ

残念ながら、諸般の事情により、本日の記念植樹に参加することはできませんでしたが、映画「道〜白磁の人〜」推薦に込めた林野庁の思いを改めてお伝えしたいと思います。

本作品の舞台となった韓国の荒れ果てた森林の姿は、まさに昨年3月11日の東日本大震災によって壊滅してしまった、東北の海岸林そのものだと感じました。

かつて白砂青松と讃えられた松原は、今は見る影もありません。人々は、松原が精神文化の一部であったことに改めて気づき、そして、真の復興は海岸林の再生なくしてはありえないことを思い知りました。

浅川巧が数々の苦難を乗り越え、韓国の山々に緑を取り戻していったように、我々も今後、何十年、何百年かけ、美しかった松原を取り戻していかなければなりません。

私は、林野庁として推薦したことが、少しでも多くの方に映画館に足を運んでいただき、緑の再生に取り組むことの尊さに気づいていただくきっかけになればと願っています。

「道〜白磁の人〜」は素晴らしい作品であり、必ずや大成功すると確信しています。山梨県、北杜市、そして本日まで参加された方々のご活動が、ここに植えられた木とともに大きく発展していくことを祈念しています。

映画「道〜白磁の人〜」関連情報は3ページ、18ページにも掲載しています。